

学校概要

創立 145 周年	学校長 岡野 真由美	副校長 川村 恵子	学期 2 学期制	児童・生徒数 423 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 5			主な関係校: 釜利谷中 釜利谷南小 高舟台小	

学校教育目標

「たのしい わたしの学校」  
ひびきあい ささえあい たかめあい  
～創造性・感性・健康を育む教育の推進～

- よく考えて行動する子(知)
- 心のやさしい子(徳)
- 心身の健康に向けて努力する子(体)
- みんなのためにがんばる子(公・開)

学校の特徴

- 開校145年という歴史をもち、本人を含め、二代・三代にわたって本校の卒業生であるという家庭も多く、学校への関心が高い。
- 閑静な住宅地に位置するが、緑や川などの自然が多く、生活科や『横浜の時間』の学習に活用できる材が多い。
- 保護者・地域ボランティアなどによる様々な活動が盛んに行われている。
- 配慮を要する児童が多く、担任一人では支援が難しい場面が多い。
- 経験の浅い教職員が半数を超え、授業実践や児童指導・保護者対応等について高める必要がある。

学校経営中期取組目標

- 「チーム釜利谷」として全職員で子ども一人ひとりを大切に、信頼される学校にします。
- ・教師の授業力を高め、分かる授業を実践し、子どもどうしの学び合いを大切にしながら学力を向上させます。
- ・互いのよさを認め合い、人とかかわりを大切にすることのできる子を育てます。
- ・健康な心身をつくるための生活習慣を形成し、進んで運動しようとする態度を育てます。
- ・家庭・地域と連携を図り、豊かな体験を通して規範意識や感謝の気持ちを育てます。

小中一貫教育の取組

釜利谷中	ブロック	釜利谷中学校・釜利谷南小学校・高舟台小学校
9年間で育てる子ども像	人とかかわりを大切にした指導の研究 ～集団の中でお互いに認め合い高め合おうとする子どもを育てる～	
自校の具体的取組	○「学び合いを通して自分の考えを深める子」に目を向け、算数科を中心とした授業研究を進める。 ○ブロック校の授業や行事を参観する機会をつくり、指導観・子ども観等、共有したことを自校の指導力・授業力に生かしていく。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 担当 学力向上委員会	分かる授業・たのしい授業を実践し、子どもの学ぶ意欲を育てると共に、子ども同士の学び合いを大切にする。	①交換授業や教科担任制を学年の実態に応じて効果的に取り入れ、教師が授業の組み立て方を工夫することにより、子どもの学ぶ意欲の高揚を図る。②重点研では、「学び合いを通して、自分の考えを深める子」をテーマに、『算数』を通して授業改善を進める。また、空間的な学習環境や段階ドリル的な学習を学校生活に適宜とり入れ、学力向上を図る。
豊かな心 担当 釜利谷委・特活部	人とかかわりについて考える機会を大切にし、相手を思い合い互いに協力し合って、よりよい集団生活ができるようにする。	①たてわり活動やブロック・ペア学年などの異年齢集団による活動を充実させ、人とのつながりを大切にできるようにする。③「にこにこ人権会議」でいじめや暴力がなく、全児童が安心して過ごせる学校にするために何ができるかを話し合うとともに、あいさつ運動や人権教育を意識した活動や取組を充実させる。
健やかな体 担当 体育部	生命を尊重し互いのよさや可能性を認め合いながら、心と体の健康づくりに楽しく取り組めるようにする。	①裏山を開放して山登りをするなど、ロング屋休みを活用して体を思い切り動かす楽しさを知り、運動する習慣を身に付ける。 ②「逃走中(鬼ごっこ)週間」や「マラソン週間」などを通して、持久力が身に付く運動を楽しむことができるようにする。
特別支援教育 担当 特別支援教育C	支援の必要な児童への支援体制を充実させると共に、家庭との連携を図り、個々の状況に寄り添った対応ができるようにする。	①配慮を要する児童の個別の指導計画を保護者ととも作成し、取り出し指導を行ったり、「釜利谷委員会」で児童についての共通理解を図ったりして校内支援体制を充実させる。 ②児童支援専任を中心に家庭への連絡を丁寧に行いながら関係諸機関との連携を図り、状況に寄り添い迅速な課題への対応を目指す。
児童指導 担当 釜利谷委員会	安心な学校生活を送るために大切なことを考え、実践できるようにする。気持ちのよいあいさつを学校・家庭や地域に広げる。	①「釜小ルール」による教職員の一貫した児童指導を行うことで、安心して過ごせる教室・学校づくりを継続していく。 ②児童運営委員会やにこにこ人権委員会を中心にあいさつ運動を活性化させるとともに、保護者や地域にも呼びかけるなどして、あいさつが日常的に行われるようにする。
地域連携 担当 各学年・教務会	保護者・地域との連携を深め、教育活動や教育環境のより一層の向上をめざして、協力体制を整える。	①地域の材(人、物、歴史、文化等)を「わくわくタイム」やその他の教科学習で積極的に活用していく。②地域ボランティアによる教育活動を充実させ、学習や学校行事などで連携しやすい体制を整える。③学校・地域コーディネーターの役わりを明確にし、さまざまな分野からの協力体制を整える。また、新たに学校運営協議会を立ち上げることができるよう準備を整える。
いじめへの対応 担当 釜利谷委・職員会議	児童一人ひとりをよく理解し、だれもが安心して過ごすことのできる、いじめのない学級・学校づくりに取り組む。	①日々の観察や情報を得るためのアンケート等の機会を活用して、児童理解や実態把握に生かす。②学級や学年の児童について学年研やブロック研で語り合う時間を作り、職員会議や釜利谷委員会全体会等を通して全職員で情報を共有する。③児童支援専任を中心とした校内支援体制を確立し、早期発見・早期支援にあたる。
人材育成・組織運営 担当 教務部	全ての教職員が人材育成や学校運営に積極的にかかわり、チームとしての力を高めていくことができるようにする。	①キャリアステージに合った研修や講座、他校の授業研究会等に参加しやすい体制を整え、自己啓発に取り組めるようにする。②企画会や教務会を通して、ミドルリーダーや学校リーダーが全体を見通しながら学校運営に関われるようにする。③重点研究以外にも学年で授業を見合ったり、多くの職員がメンター研修に関わったりして授業力向上を図るようになる。